



さ 砂ばくはどうしてできるの

がんせき ふうか 岩石が風化してできた

ちきゅうじょう やく 地球上の約14パーセントは、さ 砂ばくといわれている地域です。さ 砂ばくの大部分は、せきどう 赤道をはさんで、ほくい なんい 北緯・南緯とともに、10～35度の所 ところにあります。せきどうふきん ていいどちほう ほつきよく や南極付近を、なんきょくふきん こういどちほう 高緯度地方、その中間を、ちゅうかん 中緯度地方といえます。さ 砂ばくが多い地域は、ちゅういどちほう 中緯度地方で、ちゅういどちほう 中緯度高圧帯といわれ、こうきあつ 高気圧がよくはったつ 発達する所です。

こうきあつ 高気圧におおわれると、てんき 天気がよく、くうき 空気が乾燥して、あめ 雨が降りません。くも 雲ができないので、たいよう 太陽の熱は、ねつ 雲にさえぎられず、くも 直接地面に、ちやくせつじめん 吸収されて、ひる 昼は地面の温度が高くなり、よる 夜は熱がたくわえられず、じめん 地面の温度が低くなります。

ひる 昼とよる 夜の地面の温度差や、かぜ 風などのために、がんせき ふうか 岩石が風化して、すな 砂のようにこま 細かくなっています。また、よる 夜の間に、あいだ 間、がんせき なか 岩石の中の水分が、こおり こおり、がんせき 岩石をくだいたりします。このようなことがながい 長い間くり返されて、だんだん だんだんとさ 砂ばくになっていくのです。

にほんれつとう 日本列島は、ちゅういどちほう 中緯度地方にありますが、まわりをうみ 海にかこまれているために、あめ 雨が、おお 多く降るので、さ 砂ばくにはなりません。

さ ひろ 砂ばくは広がっている

さ 砂ばくでは、つよ 強い風がふくので、すな 砂あらしで、すな 砂が、いどう 移動し、まいとし 毎年、さ 砂ばくがひろ 広がっています。サハラさ 砂ばくでは、ねんかん 1年間に、まん 1万6000トンもの、すな 砂が、ちひょう 地表から、すな 砂あらしで、そと 外へまきちらされます。サハラさ 砂ばくでは、まいとし 毎年、おきなわほんとう 沖縄本島ぐらいの、めんせき やく 面積(約1206平方キロメートル)で、さ 砂ばくになっています。

さ 砂ばくがひろ 広がっている所では、ねんりょう 燃料として、ちか 近くにあるわずかな、き き 木も、ねんりょう 燃料にしたりしています。これも、さ 砂ばくがひろ 広がる原因になっています。(監修・国司 真)

